
心

槇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心

【Nコード】

N3862D

【作者名】

槇

【あらすじ】

主人公の小森千奈は、田中優利に恋をした。突然、田中優利に告白され…

初めて（前書き）

まだ、途中ですが呼んで下さい。

初めて

もし彼が生きてたら、今日で19歳。

ー三年前ー

見事に高校進学した私はいま自己紹介中。

「えー。鈴木美波ですじゃあ、よろしくお願いしまあす」
はあ。

ああ。

なんで、あいつと違うクラスなんだろ…

自己紹介。

次隣の人だ。

「俺は！長嶺隼人です！好きな食べ物、カレーです！」

子供だあ！？

「鈴木さん！美波ってよんでいい??」

うわ！

馴れ馴れしいな！？

「別にいいよ。」

「じゃあ！俺の事も隼人って呼んでな？！」

「えー…私は、長嶺君って呼ぶ。」

私が名前で呼ぶのは親しい人だけだ。

その時、隼人は少し嫌な顔したね。

私は全然気づいてあげなくてごめんね。

「まあ。いいや…よろしくな！」

それから、私達はすぐ仲良くなった。

「雪〜！梨花〜！」

「美波！」

雪と梨花は、高校入ってからの初めての親友。

「竜也が…」

「竜也が何？？」

竜也は、私の好きな人。

愛してる、この言葉はあいつの為にあると私は思ってる。

「竜也から聞いたけどあいつ彼女いるって。」

時が止まった。

胸が高鳴る。

体が震える。

「美波…？」

「雪、梨花…」

「美波！」

梨花は私を優しく抱きしめた。

「うっう…っ」

竜也は、彼女がいる。

私は何にもわからなかったよ。

「美波…泣いてんの？」
長嶺君だ。

私は、涙をふいた。

「泣いてないです!!」

「ぷっ！」

長嶺君は笑った。

「俺に、なんかできる事があつたら言つてな」

あなたは、こんな時も優しかったね。

竜也…。

竜也の隣はいつだって私と思つてた。

「うん…ありがとう長嶺君」

夜。

くく

竜也だ。

（今日、どした！？お前泣いてたけど！？）

胸がいたい。

（あれ…！転んじやつた）

あんたが、彼女いるからなんて言えない。

くく

（まじで…どじだな！泣き虫やろつ。）

私、転んだくらいで泣かないし。

（すみませんね！じゃあ、私もう寝るから。）

）
）

着信…。

竜也。

ーピッー

「美波…？」

「うん…何…？」

少し冷たくする私。

「話していたい…っか話したいと思って」

ドキンドキン。

やめてよ。

やめてよ。

本気にしちゃうよ。

「彼女いるんでしょ？いいの？」

「はっ…？いないけど？」

え…。

どういう事。

「だって！雪が！？」

「あゝ！あれ！！あれは、ウソだよ！」

胸が高鳴る。

「え…」

「雪に言えば、みんなに広がると思ったんだよ…ごめんな」

「なんで…？」

「彼女がいるって噂があったら、俺に告る人少しは減るかな？みた
いな感じた」

竜也はもてる。

「ナルシストか！？」

「ごめん、ごめん」

心配した。

「お前…」

「ん？」

声のトーンが落ちた。

「隣の席の奴と仲いいんだな…」

「長嶺君…？仲いいよ」

「俺とは…」

「へ…？」

聞こえない。

でも、電話のむこうの竜也が悲しそうな声をしていた。

「なんでもない…ごめんきるな」

「うん…バイバイ…」

竜也に、彼女が居なかったことが何気に嬉しくてでも、電話の竜也の態度がとつても心配だった。

―次の日―

「美波ごめんね」

「ううん…気にしてないし！」

雪が、竜也の事をあやまりに来た。

「私、緊張したよ。竜也から電話きたとき」

「そっかあよかったじゃん！」

だよね…

よかったんだよね…

「うん!!」

竜也喜欢だよ…。

「でも!ヤッパリ竜也が嘘ついたのが悪い!」

雪の一言。

「うん…そうだよね!!竜也が悪い!」

「俺の何が悪いんだ?」

「ぎゃあっ!竜也?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3862d/>

心

2010年12月18日17時37分発行